
ジョン・ウー監督と鳩

高橋さくら

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ジョン・ウー監督と鳩

【Nコード】

N4810K

【作者名】

高橋さくら

【あらすじ】

ミッシェン：インポッシブル2やレッドクリフの監督であるジョン・ウーについて綴っております。ジョン・ウーといえば鳩！鳩と言えばジョン・ウー。ジョンさんはマスコミによってヘンなイメージをつけられてしまった悲劇の監督なのです…と、私は勝手に思っています。

今回は映画監督のジョン・ウーの話。

ジョン・ウーと言えば言わずと知れたミッション：インポッシブル2の監督である。

ある人のブログに、ジョン・ウーの名前が出てこなくて咄嗟に「ほら、あの鳩飛ばす人」と言ってしまったと書いてあった。言われた人は「鳩飛ばす人？マジシャン？」と大真面目に答えたというからちよつと笑えた。

確かに鳩飛ばす人って言われたらマジシャンだと思うよなあ。もし自分が同じ状況になったら「鳩飛ばす人」と説明しそうな気がする。

ところで、なぜこんなに「ジョン・ウー」鳩飛ばす」が定着してしまったのだろう。

フェイス／オフで味をしめてミッション：インポッシブル2でも鳩を飛ばしてしまったことが原因か。

多分日本のマスコミが事あるごとに「ジョン・ウーと言えばストツプモーションと鳩を飛ばす演出でお馴染みだ」とか言い過ぎたんだと思う。

現に、前述のブログの人はミッション：インポッシブル2は見えないという。見ていないのにジョン・ウー「鳩云々がぱつと浮かぶ」というのはもはやマスコミの刷り込み効果の他ならない。

ところでジョン・ウーは鳩云タイメージが日本ですっかり定着してしまっているという事実を知っているのだろうか。

もし知ったらさぞかしがつくりくるだろうなあ。

だって「鳩飛ばす人」ってー！

奇才ティム・バートン監督！とか言われたいだろうなあ。

ジョン・ウーには今後、鳩＋ストップモーション多用なしのアクション映画で勝負していただきたい。とはいっても、そうしたらそうしたで「ジョン・ウー監督最新作！今度は鳩もストップモーションもなしで勝負！」なんてキャッチコピーをつけられそうだ。

……いいや、もう。ジョン・ウー「鳩飛ばすで今後も頑張ってください。」

（追記）ジョン・ウーの最新作、レッドクリフは未見ですが、どうやら鳩は飛んでるらしいです。（笑）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4810k/>

ジョン・ウー監督と鳩

2010年10月10日05時06分発行